



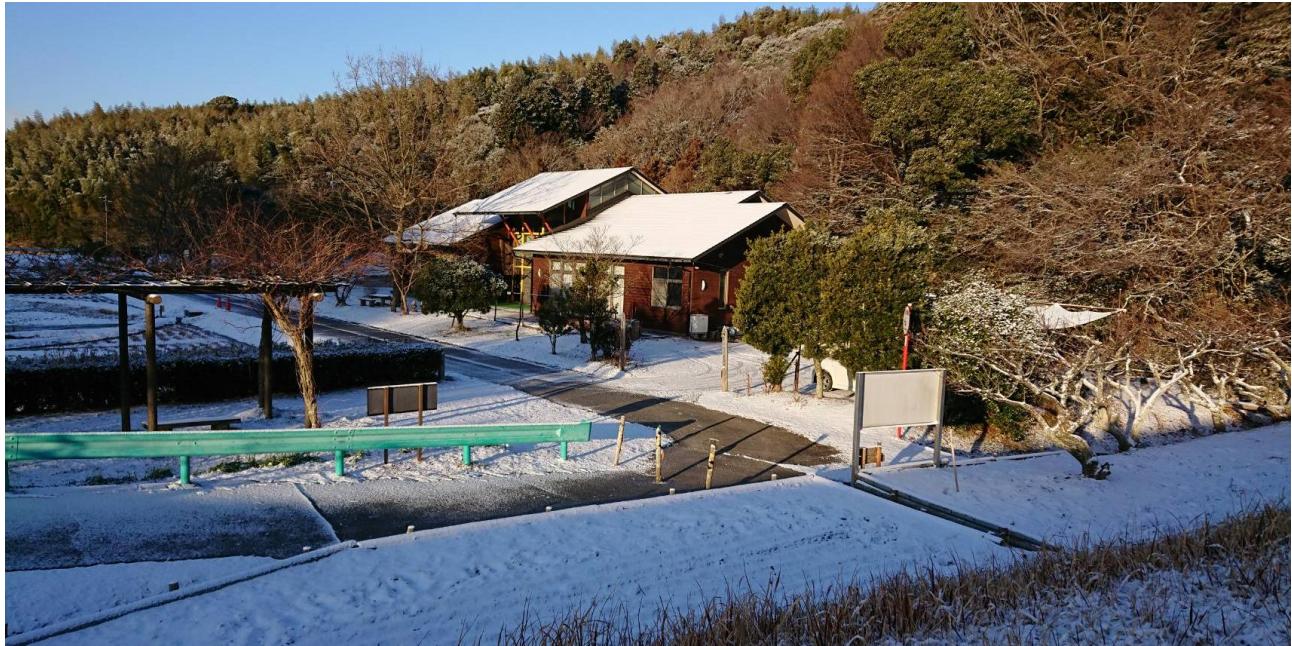
西尾いきものふれあいの里だより

1月号

2026.1.1 発行

さとやま

1月の里といきもの



12月になると時々大きな寒波がやって来て、さとやまでも、ちらほらと雪が降ることがあります。1月には、写真のような風景が見られるかもしれません。

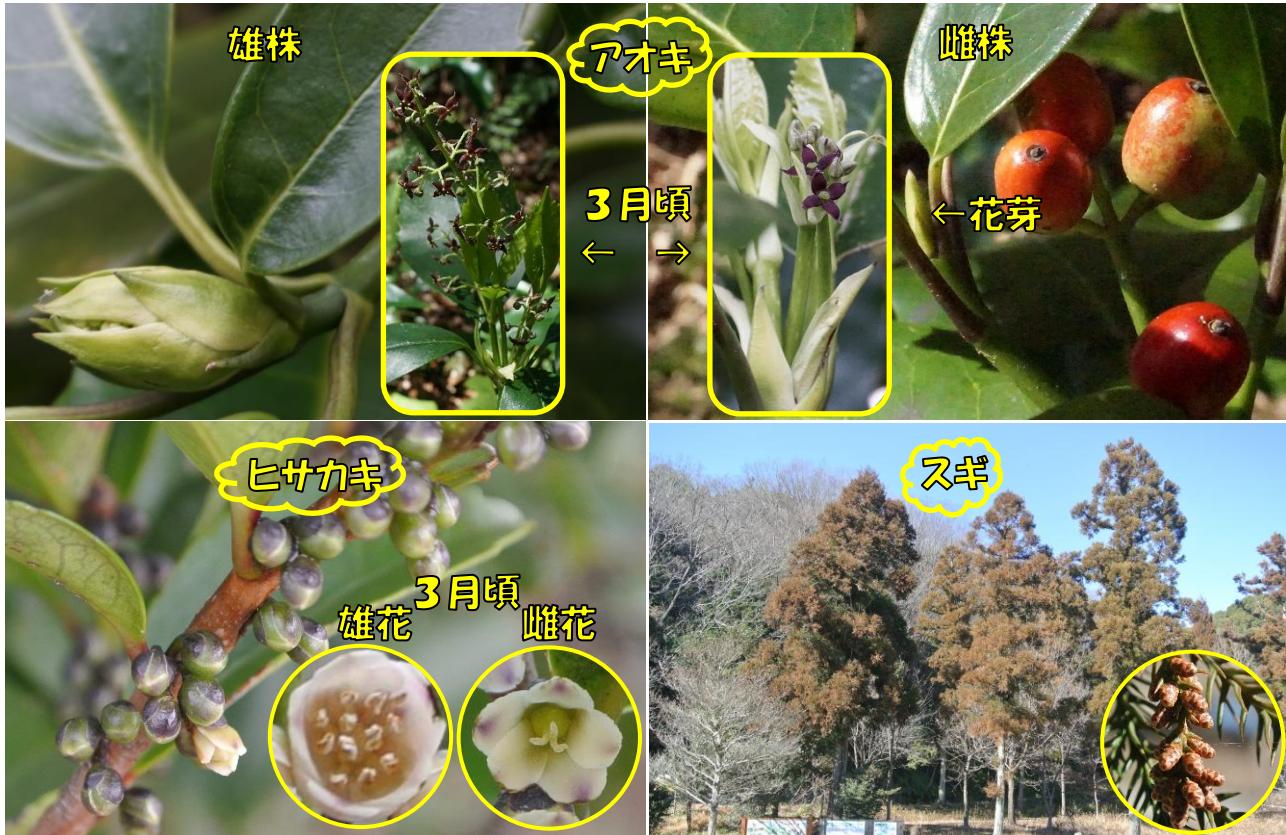
そんな寒さの中、生き物たちは春への準備をしています



ハンノキ広場のハンノキ科の落葉小高木のカワラハンノキは、秋からすでに長い花芽（雄花）と小さな雌花の花穂が見られます。風媒花で、2月頃になると雄花の花穂は長く伸びて花粉を飛ばします。

1月下旬ごろには、中央広場でマンサク科の落葉小高木のマンサクのつぼみが膨らみ始めます。「まず咲く」ことから名がついたと言われるこの花も、2月頃からリボンのような花弁を広げます。本来は黄色ですが、中央広場のものは品種改良された赤花です。

万灯山エリアなどの林縁では、ガリア科の常緑低木、**アオキ**の花芽が見つかります。3月頃咲く雄花の花穂は花の数が多いため、大きく膨らんで目立ちます。雌花は花数が少ないので見つかりにくく、その下には、昨年咲いた花から実った実が見られます。暑さ寒さに強く、赤い果実や、緑色の濃い葉や斑入りの葉が美しいので庭木として植えられています。



モッコク科の常緑小高木、**ヒサカキ**の花芽も林縁に多く見られます。これも雌雄異株ですが、実は落ちてしまっていて、雄株雌株の区別はよくわかりません。咲くのは3月頃です。

東日本では寒さに弱くて**サカキ**（榦）が育ちにくいため、代用として神事に使われることがあります。そこで、「非榦」という名がついたと言われています。

また、里のあちこちにあるヒノキ科の常緑高木**スギ**の木は、なんとなく赤っぽく見えます。これは、雄花が成熟している印です。そろそろ花粉情報が報じられるようになります。



万灯山山頂付近では、秋に発芽したリンドウ科の越年草**フデリンドウ**が、ほかの植物が少ない時期に、冬の日差しを独占して着々とエネルギーを蓄えています。中央には小さな花芽があり、4月頃開花します。

冬にエネルギーを蓄えると言えば、9月末頃見事に咲いていたヒガンバナ科の多年草、**ヒガンバナ**は、青々と葉を茂らせています。他の植物が葉を茂らす4～5月頃には枯れてしまいます。すでに秋の準備をしているのです。

中には、春の花なのにもう咲いてしまっているものもあります



ビオトープ下の池や上の池付近では、本番は3月頃ですが、ツバキ科の常緑小高木ヤブツバキの花が、暖かい日が続くと咲きます。この花は鳥に花粉を運んでもらう鳥媒花ですが、近くの養蜂箱からやってきたセイヨウミツバチや、ハナアブやハエなどが、希少な蜜を求めてやってきます。気温が下がると花弁の色が変わってしまいます。

里山エリアの杉林の道では、毎年少し気が早い、バラ科の落葉高木のウメ（白梅）がお正月前後から咲きだします。小草池の横の梅畠などでは、2～3月頃にならなければ咲きませんが、何か条件が良いのでしょうか。花はこずえの方に付くので、見上げてみて下さい。



ハンノキ広場では、毎年ここだけ、本来3～5月に咲くはずのスミレ科の多年草、タチツボスミレが、何株か春を待たずに咲き始めます。厳冬期には一度姿を消すこともありますが、最近は暖冬のためか冬中咲いていることもあります。

タチツボスミレは、咲かない花、閉鎖花をつけるので、自家受粉でも種子を作ります。そのため、この時期にも花をつける形質が、この場所で受け継がれているのかもしれません。

1月はこんな生きものも見られます



中央広場などで見られるヒガンバナ科の多年草スイセンは、冬から早春に花を咲かせます。水辺に育ち、仙人のように寿命が長く、清らかであることから名がついたと言われています。ただ、植物の全ての部位に毒性があるので注意しましょう。

万灯山などでは、ヒタキ科のルリビタキが見られることがあります。夏は高山帯で繁殖し、冬は低山や里山に移動して越冬します。

下旬の暖かい雨が降った夜には、田んぼエリアの水たまりなどで、アカガエル科のアカガエルの卵塊が、みつかります。

真冬の里で、こんな春の気配を探して散策してみて下さい。

12月の行事紹介



12月7日(日)、講座「自然の素材でクリスマスリースを作ろう」を晴れやかな天気のもとで開催しました。

リース作りの材料を集めるため里山を散策、子どもたちは、ドングリ拾いに夢中になっていました。

採集したつるを何重にも丸めて束ね土台を作り、スギやヒノキをリボンで巻き付け、採ってきた枝や木の実をグルーガンで貼り付けました。オリジナルの素敵ナリースができて、参加者は大満足の様子でした。

1月の行事予定

25日(日)	里山で野鳥を観察しよう	20名	AM 9:30~11:30	高田俊洋
--------	-------------	-----	---------------	------

内容：冬の里山で、北から渡ってきたカモの仲間を中心に里で冬を過ごす小鳥を観察します。しっかりと防寒対策をしてお越しください。

2月の行事予定

7日(土)	竹炭を焼こうⅠ(竹切り他)	20名	AM 9:30~11:30	神本 晃 河野 俊治
8日(日)	竹炭を焼こうⅡ(窯炊き)	20名	AM 9:00~11:00 (午後も参加可能)	
15日(日)	竹炭を焼こうⅢ(窯出し)	20名	AM 9:30~11:30	

内容：(1日目)竹林整備のため、竹を切り出して窯に合わせて切り、筋を取って窯に詰めます。

(2日目)窯に火を入れ、温度を測定しながら約7時間焼きます。午後は自由参加

(3日目)窯から竹炭を取り出します。どんな竹炭ができるか楽しみです。

※「竹炭を焼こう」の3回の講座のうち2回以上受講した方には「竹炭」をプレゼントします。

22日(日)	お花炭を焼こう	20名	AM 9:30~11:30	判治和征
--------	---------	-----	---------------	------

内容：花炭は、木の実や葉などの形をそのまま残して炭にするものです。里山で採集した木の実や様々な自然の材料を空き缶に敷き詰めて焼きます。焼き上がった花炭を竹の器に飾りつけると素敵なインテリアになります。

- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が4名以下の場合は開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課